

用語集

教会参事会室：修道士の会合に用いられ、教理典範を読みあげたり、重要事項が協議された場所

交差リブヴォールト：少なくとも二つの対角上のリブ、オジーブ、二つの横断アーチで支えられているヴォールト

祭壇装飾：祭壇後方の縦方向の装飾

財務担当者：修道士の会計官職で、修道院の金銭利益を担当する

シビラ：異教の予言者で、キリストの到来を告げたとされている

ジュベ：内陣と身廊を区切る内陣仕切り

壁がん：壁に設けられた埋葬用のくぼみ

ミゼリコルド：聖職者席のはね板の下にある小さな腰掛で、ミサの際に修道士が、起立しているように見せかけながら座っていることができた

役に立つ情報

平均見学時間 :1時間30分

解説付き見学、オーディオガイド見学

身体の不自由な方向けの見学あり



国立モニュメントセンターは、フランスのモニュメントに關するガイドシリーズを翻訳版で出版しています。文化・歴史遺産バージョンは書店ブティックにて販売しています。

Centre des monuments nationaux
Monastère royal de Brou
63 boulevard de Brou
01000 Bourg-en-Bresse
tél. 04 74 22 83 83
fax 04 74 24 76 70

www.monuments-nationaux.fr

王族の墓

偉大なる王朝の象徴

石造りの横臥彫像は、偉大なる王朝一族の権威を永遠に象徴しています。

12世紀に、フォンテヴローにあるプランタジネット朝墓地で始まったこの伝統は、サン・ドニ大修道院に引き継がれ、サン・ルイ(ルイ9世)の命により制作された16の君主横臥像が、身廊と袖廊の交差部に設置されました。

15世紀には、マルグリット・ドートリッシュの先祖であるブルゴーニュ公が、ディジョンに壮麗な墓を建立させます。

マルグリット・ドートリッシュはこの伝統にならって、父マクシミリアン1世がインスブルックに設けた墓や、ライバルのアンヌ・ド・ブルターニュが両親のためにナントの大聖堂に設けた墓に匹敵するものをつくろうと計画しました。

ブルーの横臥像、死体墓像、泣き像

ジャン・ド・ブリュッセルと呼ばれたジャン・ヴァン・ローメによって設計された墓は、ブラバントの工房で彫刻され、マニエリスム様式を取り入れています。

大横臥像は、メヘレンで王女の宮廷に使えていたドイツ出身の芸術家コンラート・マイトによって手がけられました。マイトは1526年よりブルーに駐在します。

マルグリット・ドートリッシュとその夫の墓の配置は、王族葬式のしきたりにならったもので、遺体用寝台の棺の上には正装した像が展示されています。

上部には、写実主義の臨終肖像を用いた横臥像、下部には裸体に屍衣のみを身に着けたトランシ(死体墓像)が配されています。このトランシは中世の風習にならい、復活を願うように、美化された顔が東側に向けられ、新たな夜明けの方に目を開いた状態で表象されています。

修道院の美術館

歴史的な彫刻

食堂には、ブルー教会や近郊の修道院施設から集められた古い彫刻が収められています。聖フィリベルトゥス、フィリベール美公、聖アンデレのグループ彫像が、フランス革命の際に損害を受けたブルー教会の西扉の彫刻の中で、唯一現存するものです。

絵画

上階には、かつての独居房に、16世紀の絵画、17世紀のフランドルおよびフランス絵画、カラバジェスキ、19世紀の風景画、トルバドゥール様式画、その他の近年の絵画作品が展示されています。展示作品には、ファン・オルレイによるマルグリット・ドートリッシュとシャルル5世の肖像画、ヤン・ブリュエゲル(ブリュエゲル・ド・ヴェルール)の「シャッス・オ・シゴーニュ(コウノトリの狩り)」、ギュスターブ・ドレの作品群、さらにはジャン=フランソワ・ミレーやギュスターブ・モローの作品などがあります。

装飾芸術

リヨン地方のルネッサンス期の家具一式、19世紀製のプレス産の家具、メイヨナの陶器コレクションが所蔵されています。

現代美術

美術館では「コンテンプラティブ(瞑想的)」な抽象絵画にも力を入れています。簡素で瞑想的なサイレントアートが、修道院の雰囲気にぴったりと溶け込んでいます

ブルー王立修道院

ブル・ガン・プレス 教会・美術館

皇帝の娘による傑作

愛のあかし

ブルー王立修道院は、ハプスブルク家の皇帝マクシミリアン1世とマリー・ド・ブルゴーニュの間に生まれたマルグリット・ドートリッシュ(オーストリアのマルグレーテ)の願いにより、彼女の亡き夫であるサヴォア公フィリベール2世美公を偲び、その永遠の愛の証として16世紀初期に建てられました。

宗教建築

もともとガロロマン期、次いでブルグントの大墓地となっていたこの地に、サン・ピエール・ド・ブルーが居を定めたのが始まりとなっています。マルグリットは、1504年のフィリベールの死の直後に、義母のマルグリット・ド・ブルボンによって造られ、破損したまま放置されていた小修道院を再建するという願いを叶えるために尽力しました。

政治的側面

約四半世紀に渡ってオランダの総督を務めたマルグリット・ドートリッシュは、メヘレンから工事の進展を見守り続けます。この修道院には、3つの墓ーフィリベール、フィリベールの母、そして自分自身の墓ーが収められることになっていました。マルグリットは、工事の完成を目にすることなく、完成直前の1530年に亡くなっています。1791年にブルーは歴史遺産に指定されます。1921年には修道院施設の一部がブル・ガン・プレス市に譲渡され、美術館が設置されました。

▲

広大な規模

フランス唯一の造りとなっている修道院には、3つの回廊と2つの教会参事会室*、4000㎡以上の共同所有地が備わっています。この広大な敷地に、たった12人の修道士が暮らしていました。

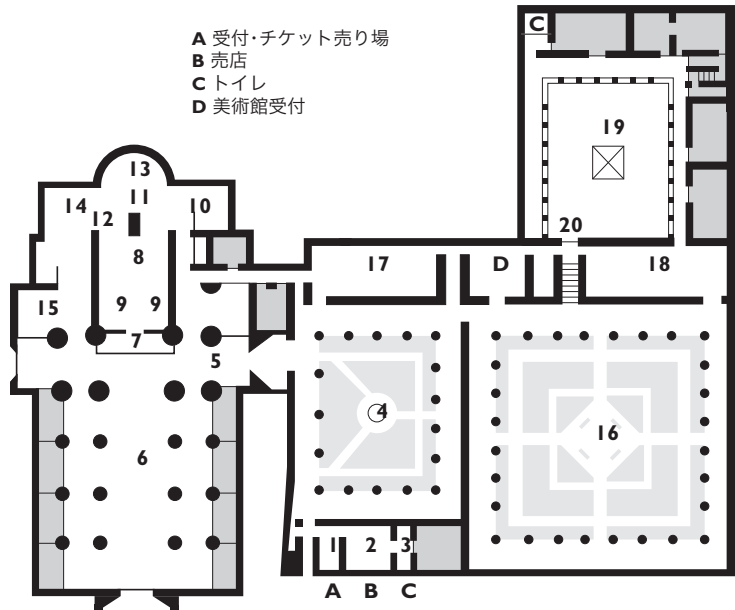
第一回廊

- 1 2 3 賓客のための建物** は、マルグリット・ドートリッシュとその従者を迎えるためのものです。
- 4 第一回廊** は、地上階部がリブヴォールト*の歩廊で囲まれ、階上部は天井つきの歩廊に囲まれています。外界と修道士の共同体の境界となるこの「閘室」から、滞在客が迎え入れられました。

教会(1513～1532)

教会は、フランドルのゴシック・フランボワイヤン様式の傑作とされ、マルグリット・ドートリッシュによって指名された、ブリュッセルの巨匠ロイス・ヴァン・ヴォーゲムによって手がけられました。

- 5 6 トランセプト(翼廊)** 南側の翼廊には、スザンナの物語を描いたステンドグラス装飾が見られます。右手には、アントワーヌ・ド・モンテキュトの礼拝堂があります。王女の施設つき司祭を務めたモンテキュトは、「エマユスの巡礼者」のステンドグラスに描かれています。
- 7 ジュベ*** は、石製の植物モチーフで豊かに装飾され内陣に施された豪華装飾を予告しています。
- 8 内陣** は大きな割合で取られ、石製の多様なレース装飾がたっぷりと用いられています。ヴォールトには、ピンクと白の塗料で切り石モチーフが描かれています。床には、もともと多色使いの陶器が嵌め込まれていましたが、今日では墓の前にわずかな名残が見られるのみです。



- 9 聖職者席** は、豊かに装飾を施したオーク材の椅子で、内陣の両サイドに配され、南側に旧約聖書、北側に新約聖書の場面と人物が浮き彫りで描かれています。これはフランドルの工房で作られたものです。ミゼリコルド* は、ブレスの職人によるものだと考えられています。
- 10 マルグリット・ド・ブルボンの墓** は、南の壁に設けられた壁がん墓*で、ふんだんな装飾が成されています。泣き像は、ディジョンにあるブルゴーニュ公の墓を想起させます。
- 11 フィリベール美公の墓** は内陣中央にあります。まわりのくぼみから10体のシビラ*が墓を見守っています。
- 12 マルグリット・ドートリッシュの墓** は、小像を配した巨大な石製天蓋を持ち、王族の葬式で用いられる壮麗な遺体用寝台を思わせます。

- 13 内陣の5つのステンドグラス** は1525~1531年に、ブリュッセルで作製された厚紙を基に作られました。中央ステンドグラスは、デューラーの版画にならって、マグダラのマリアと聖母マリアの前で復活したキリストが描かれています。両側の窓には、君主夫妻が描かれています。左側には、聖フィリベルトウス・ド・トルニュスに紹介されるフィリベール美公と、一枚と半分の窓を用いた家系(サヴォア家とブルボン家)の紋章が見られます。右側には、同様に配置されたマルグリット・ドートリッシュと聖マルグリット、およびハプスブルク家とブルゴーニュ家の紋章が描かれています。
- 14 マルグリット・ドートリッシュの礼拝堂** には、特別に入念な装飾が施され、白雪石膏と黒大理石を用いた腰掛、多色使いのヴォールト要石装飾が見られます。大ステンドグラスには、デューラーから着想を得た聖母被昇天が描かれています。上側のフリーズは、ティツィアーノの「トリオンフ・ド・フォワ(信仰の勝利)」にアイデアを得たものです。雪花石膏を用いた壮大な祭壇装飾*は、ブラバント地方の職人によるもので、「聖母マリアの7つの喜び」が描かれています。
- 15 ゴルボッドの礼拝堂** には、聖トマスの不信仰、およびブレスの総督で金羊毛騎士団員であったローラン・ド・ゴルボッドとその妻クロディーヌ・ド・リヴォアールを描いたステンドグラスがあります。この礼拝堂には、かつて教会にあった主祭壇が置かれています。

大回廊

- 16 大回廊** は荘厳な造りを見せ、上・下部歩廊ともに、第一回廊と同様の配置になっています。これは、修道士の散歩に使用されていました。アメリカ人作家リチャード・セラによる1985年の彫刻作品の2パーツが展示されています。

修道院の主要建物

- 17 修道院の主要建物** には今日、市営美術館が設置されています。この建物には、聖具室、北および南教会参事会室*、「ドルトワール(寝室)」の独居房へ続く階段がありました。
- 18 食堂** は、修道院のリブヴォールトを擁する部屋の中で最も大きなものとなっています。

第三回廊

- 19 第三回廊** は一般人向けの回廊で、工事中にその設置が決定されました。プレス様式を用い、高・低の天井付き歩廊を備え、西側で先に建てられた主要建物と接しています。食堂の近くに位置し、南側は台所と暖房室へ通じ、東側はかまど、財務担当室*、使用人のための共同寝室、牢獄へと通じていました。この回廊には丸小石が敷き詰められ、あずまや風の屋根付きの井戸がありました。ドイツ人作家ウルリッヒ・リュックリームの1990年の彫刻作品が、北の歩廊に沿って配されています。この4つの石碑は、教会に葬られた歴代修道院長を記念しています。

「ドルトワール」

- 20 ドルトワールと独居房** は、主要建物の上階にあります。約20の独居房が、「ドルトワール」と呼ばれた幅広の廊下に沿って並んでいました。踊り場の角には石造りのランプが備え付けられていました。

[[]* 裏面に解説あり